



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	介護老人保健施設ひまわり 移転改築工事	階数	3
建設地	北海道札幌市東区東苗穂4条1丁目523-48	構造	RC造
建物用途	病院	平均居住人員	233 人
竣工年	2024年8月 予定	年間使用時間	8,544 時間/年(想定値)
敷地面積	5,595 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	1,490 m ²	評価の実施日	2023年6月12日
延床面積	4,032 m ²	作成者	
		確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.77**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合 通所リハビリテーションと入居の機能を備え、地域の福祉を支える施設として計画する。	A 省エネルギー 建物は内断熱としており、入居者の居室等は熱損失の低減に考慮し、アルミサッシ+樹脂サッシ(ペアガラス)としている。 熱交換型換気扇、照明にはLED照明を採用し、省エネルギー化に努める。
B 省資源等 都市ガスを採用し輸送コストの削減に配慮している。 雨水貯留槽を設置し、流出抑制を行う。	C 緑化 敷地内に設けたシンボルツリーと、道路沿いに設けた生垣により、街並みに潤いを与え親しみやすい施設づくりを目指している。
	D 雪処理 無落雪屋根とし、近隣住宅への影響がないよう計画している。 敷地内に堆雪スペースを設ける。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(一財)住宅・建築 SDGs 推進センターのCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用	-	LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質												2.8
Q1 室内環境												3.0
1 音環境												3.0
1.1 室内騒音レベル		—	3.0	0.40	3.0	0.40	3.0	0.40				
1.2 遮音			3.0	0.40	2.8	0.40						
1	開口部遮音性能	—	3.0	0.40	3.0	0.30						
2	界壁遮音性能	—	3.0	0.60	3.0	0.30						
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	—			2.0	0.20						
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	—			3.0	0.20						
1.3 吸音		—	3.0	0.20	3.0	0.20						
2 温熱環境												3.2
2.1 室温制御			3.5	0.50	3.8	0.50						
1	室温	—	3.0	0.38	3.0	0.57						
2	外皮性能	省エネ 窓システム、外壁、屋根や床(特にビロティ)において、室内への熱の侵入に対して、十分な配慮がなされており、最良の日射遮蔽性能および断熱性能を有する。	5.0	0.25	5.0	0.43						
3	ゾーン別制御性	エアコン(冷暖房)を設置	3.0	0.38								
2.2 湿度制御		—	3.0	0.20	1.0	0.20						
2.3 空調方式		—	3.0	0.30	3.0	0.30						
3 光・視環境												3.0
3.1 屋光利用			3.0	0.30	4.2	0.30						
1	屋光率	診察室 U:1.97、居室(4床室2) U:1.98	3.0	0.60	5.0	0.60						
2	方位別開口	—										
3	屋光利用設備	省エネ	3.0	0.40	3.0	0.40						
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30						
1	屋光制御	省エネ	3.0	1.00	3.0	1.00						
3.3 照度		—	3.0	0.15	3.0	0.15						
3.4 照明制御		—	3.0	0.25	3.0	0.25						
4 空気質環境												3.0
4.1 発生源対策			3.0	0.50	3.0	0.63						
1	化学汚染物質	—	3.0	1.00	3.0	1.00						
4.2 換気			3.0	0.30	3.0	0.38						
1	換気量	—	3.0	0.50	3.0	0.33						
2	自然換気性能	—			3.0	0.33						

	3	取り入れ外気への配慮		—	3.0	0.50	3.0	0.33	
	4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
	1	CO ₂ の監視		—		-		-	
	2	喫煙の制御		—	3.0	1.00		-	
Q2 サービス性能						0.30	-	-	2.7
1 機能性					2.7	0.40	2.6	1.00	2.7
	1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
	1	広さ・収納性		—		-	3.0	1.00	
	2	高度情報通信設備対応		—		-		-	
	3	バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たしている。	3.0	1.00		-	
	1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
	1	広さ感・景観		—		-	3.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース		—		-		-	
	3	内装計画		—	1.0	1.00	1.0	0.50	
	1.3 維持管理				4.0	0.30		-	
	1	維持管理に配慮した設計		該当する取り組みが6項目	4.0	0.50		-	
	2	維持管理用機能の確保		該当する取り組みが8項目	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30		-	2.9
	2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		—	3.0	0.80		-	
	2	免震・制震・制振性能		—	3.0	0.20		-	
	2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		-	
	1	躯体材料の耐用年数		—	3.0	0.20		-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		省資源	2.0	0.20		-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		省資源	3.0	0.10		-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		省資源	3.0	0.10		-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		省資源	4.0	0.20		-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		省資源	3.0	0.20		-	
	2.4 信頼性				2.8	0.20		-	
	1	空調・換気設備		—	3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備		—	3.0	0.20		-	
	3	電気設備		—	3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		—	3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		—	2.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					2.6	0.30	2.4	1.00	2.6
	3.1 空間のゆとり				2.2	0.30	1.8	0.50	

	1	階高のゆとり		—	1.0	0.60	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		0.1≦ [壁長さ比率] <0.3	4.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			—	3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性				2.8	0.40		-	
	1	空調配管の更新性		—	2.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性		—	3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性		—	3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保		—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)						0.30	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出		緑化	—	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		緑化	—	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	—	3.0	0.50		-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	—	2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー						0.40	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPI= 0.74 品確法= モデル建物法	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用		省エネ	—	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化		省エネ	BEI= 0.77 モデル建物法	3.6	0.50		-	3.6
4	効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
	4.1	モニタリング	省エネ	主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握して、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性が確認できる。	3.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制	省エネ	—	3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価								
	4.1	モニタリング	省エネ	—					
	4.2	運用管理体制	省エネ	—					
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	2.7
1	水資源保護				3.4	0.20		-	3.4
	1.1	節水		節水型便器を使用している	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
	1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70		-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60		-	2.5
	2.1	材料使用量の削減	省資源	—	2.0	0.10		-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	—	3.0	0.20		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	—	3.0	0.20		-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	—	1.0	0.20		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	—	3.0	0.10		-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	OAフロア	3.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			-	3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源	-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	-	3.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源	-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.2
1 地球温暖化への配慮		省資源	-	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮				3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止		省資源	-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 雪処理	-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	雨水貯留槽を設置	4.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		適切な量の駐車スペースの確保、管理用車両や荷捌き用車両の駐車施設の確保	3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	室内にゴミ庫を計画、集団回収を計画している、堆雪スペースの確保	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音		-	3.0	0.50		-	
2	振動		-	-	-		-	
3	悪臭		-	3.0	0.50		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		特に何も対策を行っていない	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-		-		-	
3	日照阻害の抑制		日影規制がない	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要		BEE	1.0	BEEランク	B+
建物名称	介護老人保健施設ひまわり 移転改築工事				
建物用途	病院				
延床面積	4,032.3 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー		
	省資源等		
	緑化		
	雪処理		
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア	
A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.6)	合計 17.1点 /23.1点
Q1 温熱環境	スコア 1.0 /1.0 LR1 建物外皮の熱負荷抑制
Q1 光・視環境	スコア 1.3 /2.1 LR1 自然エネルギー利用
	スコア 7.2 /10.0 LR1 設備システムの高効率化
	スコア 2.4 /4.0 LR1 効率的運用
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)	合計 13.8点 /23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1 LR2 非再生性資源の使用量削減
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3 LR2 汚染物質含有材料の使用回避
	スコア 3.7 /5.0 LR3 地球温暖化への配慮
	スコア 2.8 /4.4 LR3 地域環境への配慮
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)	合計 7.8点 /15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.8 /4.5 LR3 地域環境への配慮
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 /6.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)	合計 3.0点 /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0 LR3 地域環境への配慮
	スコア 2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■重点項目の**最高点**は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数■重点項目の**最低点**は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数